

第四回 館山市議會定例会會議錄（第四号）



一、昭和五十五年十二月十三日（土曜日）午前十時  
 一、館山市役所議場

一、出席議員 二十七名

一 番	神田 守隆	二 番	石井 謀
三 番	綱島 憲治	四 番	横溝 功
五 番	福原 勤	七 番	古賀 礼四郎
八 番	石井 昌治	九 番	松下 正己
一 番	林 豊	一 番	栗原 一雄
一 番	近藤 好雄	一 番	渡辺 昭夫
一 番	伊藤 幸太郎	一 番	押元 稔
一 七 番	黒川 平治	一 八 番	流山 源次郎
一 九 番	石井 輝久	二 〇 番	石井 武敏
二 一 番	吉田 勇治郎	二 二 番	藤田 益治
二 三 番	菊井 敏博	二 四 番	和田 一郎
二 五 番	五十嵐 昇	二 六 番	伊賀 多朗
二 七 番	石井 正	二 八 番	安澤 徳順
二 九 番	安西 益男		
一、欠席議員 一名			
三 〇 番	山口 康		

一、出席説明員

第一号に同じ

一、出席事務局職員

第一号に同じ

一、議事日程（第四号）

昭和五十五年十二月十三日午前十時開議

日程第一

議案第六十一号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について  
 議案第六十二号 損害賠償の額の決定について  
 議案第六十四号 昭和五十五年度館山市一般会計補正予算（第三号）

日程第二

議案第六十三号 館山市奨学資金貸付条例の一部を改正する条例の制定について  
 議案第六十五号 昭和五十五年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第一号）

日程第三

議案第六十六号 昭和五十五年度館山市ユースホステル特別会計補正予算（第一号）  
 議案第六十七号 昭和五十五年度館山市水道事業特別会計補正予算（第一号）  
 議案第六十八号 昭和五十五年度館山市国民宿舎事業特別会計補正予算（第二号）

日程第四 議案第六十九号 人権擁護委員候補者の推薦について  
 日程第五 議案第四号 国道一二七号線バイパス早期実現に関する意見書について

開

議 午前十時十六分開議

○議長（五十嵐 昇君） 本日の出席議員数二十七名、これより第四回市議会定例会第四日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

議案の配付

○議長（五十嵐 昇君） 議案を配付いたさせます。議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

## 議案の上程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第一、議案第六十一号、議案第六十二号及び議案第六十四号の各議案を一括して議題といたします。

## 総務委員会委員長報告

○議長（五十嵐 昇君） ただいま議題となりました各議案は、ともに去る十二月九日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長藤田益治君、御登壇願います。

（総務委員会委員長藤田益治君登壇）

○総務委員会委員長（藤田益治君） 去る十二月九日開会の本会議におきまして、本総務委員会に付託されました一般議案二件、補正予算一件につきまして、同日午後三時、直ちに総務委員会を招集し、全員出席のもとに各議案の審査を行いました。その経過並びに結果について御報告申し上げます。

まず、議案の慎重な審査の結果につきまして、それぞれ全員原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、審査の経過について主なる事項を申し上げます。

議案第六十二号損害賠償の額の決定についてでありますが、交

通事故に関する示談交渉はそれぞれ主管課であたっているようであるが、慣れない仕事で本来の事務に支障を来すことも考えられるので、専門の事故係のようなものを設置する考えはないかと尋ねましたところ、職員の所属する課が交渉する場合と事故係が交渉する場合、それだれメリットがあるかと思ひ、民間の企業では確かに事故係を設けているところもあり、今後検討させていただきたい旨の答弁がありました。

次に、議案第六十四号昭和五十五年度館山市一般会計補正予算第三号についてであります。歳出二款総務費中、市有建築物耐震診断委託料五十二万円計上されているがこの内容について説明を求めましたところ、県においては県有財産の耐震診断を実施しており、それに合わせて本市も行うことになった、対象は市役所と市民センターで、建物の強度等について専門家に診断していただくとの説明がなされ、なお委託料は電算機に入れる資料作成のもので一月中に資料を作成し、本年度中にその結果を出していただく旨の答弁がありました。

次に、交通安全対策費中百六万五千円の増額が見込まれているが、そこでカーブミラー等相当数設置されていると思うが、維持管理はどのように行われているか伺いましたところ、カーブミラーは現在四百四十基設置されており、担当職員が常時巡回し、破損または不良のものは順次交換している、中には設置後相当年数を経過しているものがあるが、それらは順次交換していく、また清掃については地元の皆さんの奉仕でやっていたというケースもあるとの答弁があり、さらに清掃に対する補助金を出してもらえないか重ねて要望いたしました。

次に、第六款農林水産業費中いちご生産振興対策事業補助金、すなわち観光いちごについて、旅館組合といちご組合との話し合いはどのようにされているか質しましたところ、いちご生産組合農協、旅館、民宿組合等で四回程度協議している、したがって二月から五月にかけていちご狩りを実施しようということで、現在細部を詰めている、また旅館も民宿もいちご園を観光資源として積極的にPRしていこうということで、順調に進んでいる旨の説明がありました。

次に、廃プラスチック処理事業補助金が二十一万五千円減額されているが、これは収集日が指定されているところに減額の原因があるのではないか、なおまた小規模農家のために少量のものについては一般廃棄物と同様の扱いはできないか説明を求めましたところ、園芸用の廃プラスチック対策協議会が設置されており回収事業を実施している、今回の減額はキロ当たりの処理費が安くなったためである、廃プラスチックを一般廃棄物と同様に扱うことはむずかしい問題で簡単に結論は出せない旨の答弁がありました、なお小規模農業者の将来性と農業振興のためにこれが実現を図るよう一層特段の配慮と研究をさせていただきたい旨の要望をいたしました。

次に、畜産複合地域環境対策事業補助金ですが、本事業は酪農公害をなくすことと堆肥をつくるのが当初の目的であったが、施設設置周辺では臭気等の苦情があると聞くがどうか、どのように利用されているか、このことが大型酪農家に固有化されていないかの質疑に対しまして、本事業は希望する酪農家と耕種農家により農業畜産振興組合を結成して事業を行っている、地域ごとに

堆肥舎、乾燥施設を設置して利用されているが、実態をよく把握し本来の趣旨に沿わないようなことがあればしかるべき措置を講じたい旨の答弁がありました。

次に、八款土木費中、土木工事の執行にあたってはどのような順位で行われているのか、災害復旧との関係で遅れることはないか、また現在の職員では十分かどうか伺いましたところ、前年度において一応緊急順位を決めて予算を要望し、予算化された後において年間の執行計画を立て事業を行っているが、災害復旧事業との関連もあって当初の計画どおりにいかないこともある、発言の中にあつた技術職員の件は少ないということと、三年で三名の職員を採用し配置した、今後は経過を見ながら充実を図っていきたいとの説明がありました。

次に、下水工事請負費四百万円の減額に対して、本会議での質疑もあつたが、これは来年度実施される見込みはあるか、全体の工事概要についてお尋ねしましたところ、本年度国の補助金を得られなかったので五十六年度に要望している、先般ヒヤリングがあつたが、五十六年度新規事業として要望のある下水路は館山だけということで、補助金がつく確率はかなり高いのではないかと県の関係者も言っており、明るい見通しと考えている、事業の概要としては現在掘りて四メートル近くの幅がある、そのうち三メートルを都市下水路、一メートルを工業廃水ということと富士デイルゼルが行う、都市下水路三メートル部分については水路用地ということで寄付をしてくれることになっている、総事業費一億円で事業年度は三年から四年くらいと思う旨の説明がありました。

次に、城山公園用地購入費が計上されておるが、どの部分の用

地を購入するか伺いましたところ、富士興産所有の土地の一部を購入する、残りは市の開発公社に委託し同時に買取するが、補助金がつき次第で購入するとの説明がありました。

次に、館山運動公園整備事業負担金が減額計上されているが、その理由を質しましたところ、当初国の事業を三億五千万円、県の事業を三千万円と見込み負担金を計上したが、予算化されたのが国二億四千万円、県が四千万円であり、負担金千八百万円の減額になった旨の説明がありました。

次に、一〇款教育費中、小学校費で西小、東小において雨漏りがすると聞くがどうか伺いましたところ、東小については雨漏りがする都度連絡があり営繕手によって直すようにしている、西小については聞いていないが、今後そのような事実があれば対処する旨の答弁がありました。

次に、九重小学校校舎改築工事請負費六千三百万が減額になっており、本会議でも質疑がなされたが、補助対象にならない校舎を補修すればそれだけ改築が延びるということはないかどうか質しましたところ、外面的にはきれいにつくれるが骨組みがじょうぶになることはないかと解釈している、本会議で申し上げた五千五百点というのは暫定的なものであり、本来は四千五百点で変わる可能性があるが五千五百点ということは今後も続くであろうと思われる、続くならばそう長くないうちに改築ができるというのが見通しである旨の答弁がありました。

次に、六項保健体育費中、八節報償費並びに一二節役務費にロードレース関係の経費が計上されているが、この内容について説明を願ひ、また三月に実施するというのは観光の面で花を考え

てのことであると思うが西風が強いのではないかと説明を求めましたところ、ロードレースのリハーサルで内容的に三とおりのコースで二十キロ、十キロ、五キロコースを考えている、いずれも起点、終点は房南中学であり、そこで他の地域では花のない時期に本市ではきれいに咲くという観光的な面からこの時期を考えた、なお測候所の話では三月に入ると西風はなくなるであろうということだった、本年度は三月八日に行われ、来年度は最終的な準備五十七年度すなわち五十八年の二月後半から三月にかけ本大会を行うとの説明がありました。

次に、補正予算給与費明細書について、本会議でも質疑がなされたが、議員数の補正を今回なぜしなかったのか、補正すべきではないかをお尋ねしましたところ、従前議員等の補正は三月議会で行われており今回もそれを踏襲したが、今後検討してまいりたい旨の答弁がありました。

次に、第三表債務負担行為補正について、この内容について伺いましたところ、二十五年償還でそのうち据え置き五年、元利償還二十年、据え置き期間中は利子を払い、五年以後につきましては元利償還になる、利息は六分五厘、この事業につきましては果實ほ場整備で実施した事業で稲地区交差点の改良については三千三百八十八万円との二五〇万八千四百七十七円、さんのう橋かけかえ工事千五百二十万円との二〇〇万三千八百八十万円、幹線農道舗装は総延長が二千八百七十七メートル、そのうち館山市分二千九十七メートル、三芳分が七百八十メートル、館山市の事業費八千四百六十五万円との二五〇万二千五百十五万円、合計で三千三百四十二万円であるとの答弁があり、なお市当局にあっては、これが安房中央

土地改良区の事業であるが、実施にあたっては事前協議等の段階で地域の交通事情等を十分に勘案し、地域住民が不便を来さないよう指導してもらいたい旨の要望をいたしました。

次に、第四表地方債補正について、土木関係の起債が増額されてそれに伴い一般財源が減額されているが、その分を他の土木関係の事業に積極的に振り向けて住民の要望にこたえてもらいたい趣旨の要望をいたしました。

以上、本委員会に付託されました議案三件について総務委員会における審査の概要を御報告申し上げ、満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます。総務委員会委員長報告といたします。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。通告による討論はありませんでした。討論はございませんか。——討論なしと認めます。よって討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

議案第六十一号、議案第六十二号及び議案第六十四号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって議案第六十一号、議案第六十二号及び議案第六十四号の各議案はいずれも原案どおり可決されました。

## 議 案 の 上 程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第二、議案第六十三号及び議案第六十五号の各議案を一括して議題といたします。

### 文教民生委員会委員長報告

○議長（五十嵐 昇君） ただいま議題となりました各議案はとみに去る十二月九日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。よって、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。文教民生委員会委員長伊賀多朗君。御登壇願います。

#### （文教民生委員会委員長伊賀多朗君登壇）

○文教民生委員会委員長（伊賀多朗君） 本定例議会において去る十二月九日文教民生委員会に付託されました議案二件について、翌十日委員会を招集し慎重なる審査を行いました。以下委員会における経過並びに結果について申し上げます。

まず最初に、議案の審査結果について御報告申し上げます。

議案第六十三号館山市奨学資金貸付条例の一部を改正する条例の制定については全員一致をもって、また議案第六十五号昭和五十五年度館山市国民健康保険特別会計補正予算第一号については賛成多数をもって原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、審査の経過における主なる事項について申し上げます。

議案第六十三号につきまして、市独自のこの制度の位置づけについて説明を求めましたところ、本市の制度は寄付された原資をもって始めたものであり、次いで国では利子をつけて返還させるとか、返還期間の短縮を考えているようだが市ではどうかと質したところ、利子をつけることは将来とも考えていない、期間については限られた財源をより有効に利用するためにあまり長いと回収に困るとの答弁がありました。

貸付基準を質したところ、学業三〇％、所得五五％、資産一五％の割合で、所得については関係官庁の証明によって検討しているが、不公平のないよう配慮していきたい。また償還の滞納など現時点では全くないという説明でありました。

次に、議案第六十五号につきましては、医療費の現況について質問しましたところ、五十五年度積算にあたっては決算対比で医療費二〇％上昇を見込んでおりました、これには医療費の改定分七・七％を含めておりますが、現在のところ一四・七％の伸びで予算のワク内で推移しているとの回答がありました。

さらに、この分は来年度の余裕財源として見込めるのではないかと質問しましたところ、現在は九月までの支払いしかわかっていない、例年冬に向かっての下期のほうが多いが、五、六千万円ぐらいは繰り越せるのではないかとの感じを持っているとの回答があり、また医療費が上がれば行政上健全財政を維持するといふたてまえから被保険者に負担していただかなければならないとの答弁がありました。

また、事務費などの超過負担については、事務費として国が認

めないものがある、納税組合の報償金などは認められていない、大体六千万ぐらいの事務費のうち六五ないし七〇％交付されているが、二、三千万程度超過負担があり、さらに一般会計から繰り入れる時期にきているのではないかとの問いに、国保の加入者は市民大多数ではないので一般会計で負担することは必ずしも公平ではないとの答弁がありました。

また、保険税が何％上がったときに財政調整基金を取りくずすかと質したところ、基準と言われても困る、基金は不測の事態に対する備蓄であり二億円ぐらい積み立てたい、自然増は税として負担していただき、医療費改定分については国保運営協議会などで相談したいとの答弁がありました。

国保税の収納状況については、五十二年度現年度分九五・四九％、繰越分二七・五五％、五十三年現年度分九五・〇三％、繰越分二七・四一％、五十四年度現年度分九四・一一％、繰越分二三・七五％であり、本年度十一月末現在で現年度については調定対比で五四・八三％、昨年同期と比べて一・〇二％上昇していると説明がありました。

また、国保財政の健全化について、国に対する働きかけについて質しましたところ、老人医療の別立てをあらゆる組織、機会に陳情しているとのことでした。

次に、国保税の納税組合への加入率は五九・二〇％で、加入者一〇〇％近く納税しており、また病気にかからない人に対する報償金については、この制度は共済制度であるということで御理解いただきたいとの答弁がありました。

次いで、討論に移り、反対の立場で、税負担をこれ以上ふやさ



ないということから基金に積み立てるということ、また基金の運用について反対であるとの意見が述べられましたが、賛成多数で原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、文教民生委員会に付託されました議案について、本委員会の審査の概要を御報告申し上げました。満場一致の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、文教民生委員会委員長長の報告を終わります。ありがとうございます。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で委員長長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を終結いたします。

## 討 論

○議長（五十嵐 昇君） これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案第六十五号昭和五十五年度館山市国民健康保険特別会計補正予算第一号について反対の討論を行います。昭和五十四年度決算による繰越金一億五千六百七十四万六千円のうち二分の一相当分を財政調整基金に積み立てようとするものですが、国保税は本年度わずかばかりの減税があったとは言え、もはや市民の税負担能力の限界にあるものです。これ以上の増税など許されません。収入未済額の増大など他の税目と比較してもこうした事態にあることは明瞭であります。

繰越金は財政調整基金への積み立てではなく減税に振り向けるべきです。なぜならもともと繰越金は昭和五十四年度で医療給付などの見込みが実際よりも多かったからであり、結果的にみれば国保税を多く取り過ぎたからにほかなりません。五十四年度の繰越金一億五千六百七十四万六千円は一世帯当たり約一万七千円も多く国保税を取り過ぎたこととなります。減税のためにこの財源を有効に活用すべきです。

ところで、当局の説明では、財政調整基金残高を二億円にまでしたいとのことですが、これは一世帯平均約二万一千円もの負担をすることに相当いたします。

国保税の負担の軽減が切実なときに、市民にこのような負担を求めるやり方は承服できるものではありません。こうしたことからこの基金への繰り入れに反対をいたします。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で通告者による討論を終ります。

通告をしない議員で討論はございませんか。——討論なしと認めます。以上で討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第六十三号について採決いたします。

議案第六十三号についての委員長長の報告は原案可決であります。議案第六十三号を委員長長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって議案第六十三号館山市奨学資金貸付条例の一部を改正する条例の制定については原案どおり可決されました。

次いで、議案第六十五号について起立により採決いたします。

議案第六十五号についての委員長の報告は原案可決であります。議案第六十五号を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

#### （賛成者起立）

○議長（五十嵐 昇君） 起立多数であります。よって議案第六十五号昭和五十五年度館山市国民健康保険特別会計補正予算は原案どおり可決されました。

### 議案の上程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第三、議案第六十六号乃至議案第六十八号の各特別会計補正予算を一括して議題といたします。

#### 建設経済委員会委員長報告

○議長（五十嵐 昇君） ただいま議題となりました各議案はともに去る十二月九日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長流山源次郎君。御登壇願います。

（建設経済委員会委員長流山源次郎君登壇）

○建設経済委員会委員長（流山源次郎君） 去る十二月九日開会の

本会議におきまして本建設経済委員会に付託されました議案第六十六号乃至六十八号について、十二月十一日建設経済委員会を招集し、各議案について慎重なる審査の結果、原案どおり可決すべきものと決定いたしました。

次に、審査の経過について主なる事項を申し上げます。

議案第六十六号昭和五十五年度館山市ユースホステル特別会計補正予算第一号について、県支出金増額についての理由を問いましたところ、当初千六百三十六万ということであったが、県のほうで極力市にマイナス要素を与えないということで、その後の人件費の増からこの額に決定したとの回答を得て全員原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、議案第六十七号昭和五十五年度館山市水道事業特別会計補正予算第一号について主なる質疑応答を報告いたします。

七七ページの工事費減額の理由についてただしましたところ、県道館山長尾線の関係で当初直営工事として配水管布設本復旧工事を計画したが、この工事を県が施行することに伴い工事請負費から負担金に組みかえをした、配管延長千八百八十メートル、道路復旧工事については県がこれから発注するとの答えに対し、工事請負費から負担金に組みかえをしたことによって逆に市の負担がふえたのではないかとの問いに対し、配管をする計画の延長に宅造の関係があり、負担金には含まれている、その部分については宅造業者の負担になる、収入で四十万円計上した旨の答弁がありました。

収益的収入の受取利息が百万円増額されている理由についてただしたところ、本年度当初において国の抑制政策の関係で発注を

抑制したことや、起債事業がはつきりしなかったため発注が遅れたことによる支払いの関係、また一般会計関係からの一億円程度の補助金、支出金があり資金繰りがよくなったために、定期預金、通知預金、普通預金において百万円の増になった旨の説明があり。

七ページの資金計画の前年度未収金について、その内容等につきそれぞれ質疑応答あり、五十四年度二月、三月分の料金が四月に入ってくる関係で大部分が未収金になっており、前年度決算では四千三百一十一万であり、現在まで収納された額が四千八十九万九百二十円であり、本年度中に収入できる見込みで資金計画として前年度未収金として四千六百六十六万六千円を計上した旨の説明があり。前年度未払金は四百五十二万増額補正されたのをただししたところ、五十四年度決算において未払金が七百五十二万と確定したので今回補正した旨の答えに対し、前年度未収金も決算で確定したのではないかとただししたところ、前年度未収金については未納の関係があり、確定していない旨の再答弁があり。

水道料金の滞納整理はどのようにしているかを問うたところ、払わない者については給水停止の措置をとっており、五十四年度二十件停止した、最後まで残ったのが六件であるとの答えに対し、滞納解消と弱い工事施行業者の育成を要望し、全員原案賛成可決すべきものと決しました。

次に、議案第六十八号昭和五十五年度館山市国民宿舍特別会計補正予算第二号についての内容報告の主なものについて次のことく応答がございました。

まず、宿泊者数の大幅減についてただししたところ、当初予算積算にあたっては五月営業開始ということと施設が新しくなったこ

ともあって利用率六〇％で積算したが、実際の開業は六月三日になったことと新しい施設になったことが考えられる、なお五月の宿泊者は二千四百三十六名を積算していた旨の答弁があり。

宿泊、貸席、会議が減っているが飲物類が伸びていることについてただししたところ、酒、ビールが料金的に一本三十円ずつ上がっている、増料理の注文がふえたことにつれて飲物がふえていったと思うが、はつきりした理由はわからない旨の回答あり。

各手当の減額補正を問いたるところ、開業の一カ月遅れ、職員の変動による旨の答えあり。

宣伝方法については国民宿舍協会、あるいは単独で新聞広告、パンフレットをつくって宣伝している。

年間休憩利用者数の四千人確保をただし、純然たる休憩者は現在のところ千五百人で、これから忘年会、新年会、春のシーズンで四千人はおおむね確保できる旨の回答を得、来年度の見通しについてをただししたところ、新しい施設ができた効果が出てくるものと思うし、サービス、料理の面でも充実していきたいとの答弁を得、西岬荘、いこいの村等は計画宿泊者を確保できる状況にあると聞く、鳩山荘も将来なお発展させるため予算編成にあたって也十分配慮され、宣伝等により一層の努力を願いたいとの要望を申し入れ、全員原案賛成に決定いたしました。

以上、本委員会に付託されました議案の審査概要を御報告申し上げ、満場の御賛同を賜りますようお願いいたします、建設経済委員会委員長報告といたします。

○議長（五十嵐 昇君） 以上で委員長の報告を終わります。ただいまの委員長報告について御質疑を願います。御質疑ござ

いませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。通告はありませんでした。討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

議案第六十六号乃至議案第六十八号についての委員長の報告は原案可決であります。各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって議案第六十六号乃至議案第六十八号の各特別会計補正予算はいずれも原案どおり可決されました。

## 議 案 の 上 程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第四、議案第六十九号人権擁護委員候補者の推薦についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

## 議 案 の 内 容 説 明

○議長（五十嵐 昇君） 議案の説明を求めます。

（市長半澤良一君登壇）

○市長（半澤良一君） 議案第六十九号人権擁護委員候補者の推薦について提案理由の御説明を申し上げます。

人権擁護委員法に基づきまして館山市人権擁護委員候補者の推薦を求められておりますので、小澤 實さん、伊澤きよさん、小澤正治さん、島野茂樹郎さんの四人の方を最適任と信じて御推薦申し上げ、御承認いただきたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

○議長（五十嵐 昇君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

## 委員会付託の省略

○議長（五十嵐 昇君） お諮りいたします。

本案については委員会付託並びに討論を省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。

## 採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

## 議案の上程

○議長（五十嵐 昇君） 日程第五、発議案第四号国道一二七号線バイパス早期実現に関する意見書についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（五十嵐 昇君） 以上で朗読は終わりました。

## 議案の内容説明

○議長（五十嵐 昇君） 提出者の説明を求めます。

二四番議員和田一郎君。御登壇願います。

（二四番議員和田一郎君登壇）

○二四番（和田一郎君） 発議案第四号国道一二七号線バイパス早期実現に関する意見書につき提案理由を御説明申し上げます。

詳細な内容につきましては、お手元に配付のとおりでありまして、すでに皆さん方十分御理解をいただいておりますものと考えております。

国道一二七号線の現況は、自動車の大衆化、余暇利用の拡大等に伴い、激増する交通需要に対応できない状況にありまして、従前から沿線市町村あげてバイパス建設促進の努力を続けておりますが、いまだ実現をみておりませんことはまことに遺憾であります。

この際、本市議会といたしまして、諸団体とともに国道一二七号線バイパスの早期建設を関係機関に要望することは、当市における経済活動の振興、市民生活の向上に資するものであると考

えまして本案を提出いたしました次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げまして、提案理由の説明といたします。

○議長（五十嵐 昇君） 説明は終わりました。

## 質疑応答

○議長（五十嵐 昇君） 御質疑を願います。

○一番（神田守隆君） この意見書について、提案者ないし賛成者の方に御質問をしたいと思います。これまでも、一二七号線館山バイパスの建設にあたっては、これまで反対同盟の方々がそれなりの署名を集めたりして、そのために建設が進んでいないということについては十分承知しているわけであります。

私は、このバイパスを建設するにあたっては、この反対同盟の方々との円満な解決を早期に図ることがまず第一に必要なのではないかとこの考え方をもっているわけであります。

したがって、この決議案に賛成ないしまた提案者の方にお聞きしたいのは、この提案にあたり事前にそうした話し合いなり、何らかの合意なり、そういったことで事前の折衝なりがあったのか、そのことについてお伺いしたいと思います。

○二四番（和田一郎君） 基本的なことでは、私は一二七号線バイパスは必要なものであるということに同意していただきまして、七名の賛成議員の賛同を得てこの意見書を提出したわけでございます。

個々の問題については、私は答えるべきだかどうかわかりかねますが、一二七号線バイパスはどうしても必要なものであると確

信しております。共産党の考えは賛成であるかないかちょっとはつきりわからないようなわけですが、これが必要だということは館山市民等しく望んでいることと考えております。個々のことは私の答えるべきことじゃ——はつきりわかりませんから、当局のほうにおいてまた機会をみて聞いてもらいたいと思います。

○一番（神田守隆君） 終ります。

○議長（五十嵐 昇君） 他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。

#### 委員会付託の省略

○議長（五十嵐 昇君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

#### 討 論

○議長（五十嵐 昇君） これより討論を行います。

○一番（神田守隆君） この意見書の問題ですけれども、私は一二七号線のバイパスの必要性、これについては異論を唱えるものではございません。しかしながら、一二七号線バイパス建設にあたっては関係する住民との十分な話し合いのもとに進めるべきであるという考え方を持っているわけでありまして、先ほどの答弁におきましてそこらへんについては十分な話し合いがされている

というふうにはどうしても思えません。

また、現在の路線の問題については、計画されている路線ですけれども、これまでも指摘されている問題ですが、学校環境を破壊するというような危険性が指摘され、それなりの努力はされているだろうとは思ひますけれども、十分それについての懸念が払拭されておらない問題。それから道路が計画されれば当然立ち退きにあらなければならぬ、そうした方々もいるわけでありまして、これについての十分な補償なり、責任なり、納得のいくような形で本当に話が進められるのかどうか非常に疑念に思ひつてあります。

こうした時点の中で、こうした意見書を提出するということはいかえって一二七号線バイパスを促進するというよりも無用の混乱をもたらすことが考えられるというふうに思ひつて、私は十分な慎重審査の上こういう提案はすべきであり、現時点では同意できないということであります。

○二〇番（石井武敏君） このバイパス問題につきましては、大変関心を寄せている問題でございますが、これは館山市ばかりではなくて安房郡市広く地域的に関心を寄せている問題であります。

いずれにしても、バイパスを推進してもらいたい側、これはもう十分時代の趨勢になつた計画であるということで推進しているわけでありまして。逆に、バイパスを反対している側の中には、実際に土地をバイパス路線として提供していかなければならないという、そういう方も事実いらつしやるわけでありまして。ですから、そうした先祖からずうっと受け継いできている土地を提供していかなければならないという悲運に泣いている立場の人た

ちの声を聞きますと、人として思わず耳を貸さないではいられないような気持ちができるわけでございます。

この計画はもともと当初は都市計画道路でありました。昭和四十三年に議決を得ている路線であるというように聞いております。その後都市計画道路をバイパス路線として復活させまして、国の事業として取り上げてもらうように国に申し入れをしたというような経過があると思います。こういうようにこのバイパス計画はもともと国の事業でありながら出発の時点におきましては市当局の主体性とか指導性というものが微妙に影響しているという事業であるというように私は考えております。

といいますのは、国は市のそういった指導性とかそういうものを期待し、市もおのずからそういうものを認識しながら現在に至っているのではないかと。具体的に言えば、国はすでに都市計画道路として認められた計画の中にバイパス計画をのせてやるんだから、市としても対住民の問題は地元で十分な話し合いを通じまして解決を図っていただきたい、というように国の姿勢があるのではないかと考えるわけであります。

こうしたことを考えますと、バイパス計画を推進するということと住民の側ということを考えますと、この間に立つ市当局の果たす役割というのは非常に重要なものがあると思います。この役割は国では果たせない役割であります。直接自分の土地とかかわる住民とどういうような基本的な姿勢で接していくかというように、これが今後の解決に大きな影響をもたらしものであると思います。

予定路線が自分の敷地に入り組んでいる人たちは、このバイパ

スの話題が出るたびに非常に先行きの不安を感じるわけであります。これから先自分たちは一体どうなるんだろうという不安でありますけれども、現在こういった住民の不安を受けとめるための機関とか方法とか、あるいは言葉を変えて言えば受け皿になるものは全くないわけであります。ですから、先行き不安からこんな心配するんならバイパスなんかなくなっちゃいいというような感情にまで発展しかねないのが現状であると私は考えております。

ですから、住民の感情を受けとめるための誠意のある受け皿づくりといえますか、これをつくっていくということがこれから市が心してかからなければならぬ問題ではないかと考えるわけであります。そのためには、あくまでも住民の側に立つということが肝心でございますし、住民の気持ちというものをはだで感じていくということが必要であると思います。こうした基本的な市の姿勢を確立してこそ住民が納得し得るような具体的な方法や方途が生まれるものであるというふうに私は考えます。どうか市当局は今後積極的に住民と対話を重ねていただきたい。そこに市の役割というものはおのずから備わっていくんだというふうに感じますので要望したいと思えます。

道路事情につきましては、反対側も賛成側もすでに胸襟を開いて討議をする時期には十分きていると判断しております。お互いに相互の立場を考えながら、将来館山市の道路はいかにあるべきか、私たちが——大げさに言えば、子孫に残すためにどうあるべきかということをお互いが胸襟を開いて広い視野に立って討議をする時期にさしかかっていると思えます。ですから、こういう重要な時期になっているさなかの市当局の対応の仕方、これを御研

究いただきたいと思ひます。

以上述べました理由によりまして私は本議案に賛成するものであります。以上でございます。

○議長（五十嵐 昇君） 他に討論ございませんか。

○一八番（流山源次郎君） 私はバイパスの早期実現に賛成するものでございます。

それは、すでに御承知のとおり、つい最近におきまして川名の橋のかけかえをやったために、船形川名地区においては非常に商店街におけるところの交通のバニクというものが発生しましてその当時、親戚の顔とか、そういったもので仕方なしに反対の署名をした者自体も、また商店自体が、反対した人自体が、「こんな交通のバニクということが起きたんでは、もうとてもやっくいけない」、「一刻も早くこれにかわるバイパス線をつくってくれ」、という世論が喚起されたわけでありまして、われわれとしても館山、船形地区のあの非常な交通のバニクを防ぐために早期実現をお願いいたしたいと思ひます。

○議長（五十嵐 昇君） 他に討論ございませんか。

○二九番（安西益男君） 私も賛成の立場から若干考えていることを述べたいと思ひわけであります。

この問題につきましては、当初私自体反対の方々からいろいろ御相談を受けて、かなり議会でもこういった点で当局の話を聞いたわけですが、だんだんと調べていきますと、現地も調べましたし、また国会にもこの問題について連絡をとって検討したわけですが、実際署名等でも相当な反対の署名があったわけですが、しかし、本当に調べてみますと、本当にごく少数の反対者ということ

がわかったわけです。

長年の館山の交通緩和といひますか、人命尊重という面からでもどうしても早期実現といひことは館山市の発展の上からも欠くべからざる大きな問題だといひふうに考えるわけでございます。そういう点で、いま話し合ひも若干してきたといひことも聞いておりますが、早く実現させるためには地元との話し合ひを極力進めていただきたい。また要望も極力それに沿ふるようなそういう方向に市自体も臨んでいただきたい。

そういうことから、実際の全国的な例を見ますと、どこでも素直になんていふことはあり得ないのが実情でございます。こういった点全国的な例からしてほとんど変更をされたといひふうにはないといひ、国会の私ども国会議員の調査によつて出てきているわけでございます。

そういった点で、発展という面から、また先ほど申し上げた人命の尊重という面からも、一日も早く実現の方向にもつていていただきたい、こつういふ要望をもちまして本案に対する賛成の討論といたします。

○議長（五十嵐 昇君） 他に討論ございませんか。——討論なしと認めます。

採 決

○議長（五十嵐 昇君） これより採決いたします。

採決は起立により行ひます。

本案を原案どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）



○議長（五十嵐 昇君） 起立多数であります。よって本案は原案どおり可決されました。

### 継続審査について

○議長（五十嵐 昇君） この際申し上げます。

去る十二月九日の本会議において文教民生委員会に付託されました請願第四号館山幼稚園舎早期建設実現に関する請願書について、委員長から会議規則第七十五条の規定により閉会中の継続審査とされたい旨の申し出がありました。

お諮りいたします。本請願書を委員長からの申し出のとおり閉会中の継続審査といたしますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（五十嵐 昇君） 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

閉

会 午前十一時二十二分閉会

○議長（五十嵐 昇君） 以上で本定例会に付議されました案件はすべて議了されました。よってこれにて第四回市議会定例会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

一、議案第六十一号乃至議案第六十九号

一、発議案第四号

一、継続審査について

地方自治法第二百三十三条第二項の規定により署名する。

館山市議会議長 五十嵐 昇

館山市議会議員 渡 辺 昭 夫

館山市議会議員 伊 藤 幸 太 郎